

熊本大学業務改善表彰「特別賞」受賞報告

須惠耕二^{A)} 大嶋康敬^{A)} 松田樹也^{A)} 寺村浩徳^{A)}

^{A)}電気情報技術系 ^{B)}生産構造技術系

1 業務改善表彰について

熊本大学は毎年、過去2年間を対象期間として管理運営面における業務の効率化および合理化の点で特に顕著な功績又は模範として推奨するにふさわしい業務改善努力があった者（部局長等の推薦）に対し、業務改善表彰を行っている。表彰は、審査委員会が業務改善の有形・無形の効果、費用対効果、経済的効果、問題式、改善意欲、着想度などから総合的に審査し、学長によって授与される。受賞者には報奨金が授与されると共に、人事記録にも受賞として記録される。

2 改善内容

我々は、旧計測制御WGとして平成23年度より取組みを開始した盲学校用学習支援器具の開発・製作と全国寄贈への展開のうち、平成25年度・26年度に行った活動について技術部より推薦を受けた。

本表彰のほとんどの評価項は業務の改善におかれているが、我々は「学生サービスの向上が図れるもの」「地域への貢献に資するもの」の2項で要件を満たすものとされた。

取組の概要は次のとおりである。（推薦書よりの引用）

改善事項	実社会ニーズに応えるものづくり教育展開と作品寄贈による全国規模社会貢献
取組概要	<p>従来、工学部での学生ものづくり教育は、課題を学内で設定し実施してきたが、平成23年度に技術部計測制御WGが盲学校向けに開発した「音声式点字タイプ教具」を、ものクリプロジェクトの学生課題にして3台寄贈したところ、教具の導入効果の高さにより盲学校から全国に紹介された。各地から多数の導入希望が寄せられた事を受け、平成24年度より「社会の実在ニーズを満たす学生早期ものづくり教育と作品寄贈」という形での教育兼社会貢献プロジェクトを開始し、視覚障害教育者との広域連携を画策。平成25,26年度での発展的実施により、点字授業を行う全国68校の盲学校全てに対し1校1台の寄贈を実現するに至った。</p> <p>作品寄贈という社会貢献では、材料費確保の課題があるが、参加学生をチーム化して学内プロジェクト申請を支援、その採択後は技術指導を行って完成まで導くと共に、並行して自らも競争的外部資金も獲得してきた。</p> <p>また、盲教育現場の潜在的ニーズを把握して新規開発に繋げるため、全国規模の盲教育関連研究会での機器展示や導入希望・アンケート調査等を学生に経験させ、さらに製品使用者からのフィードバック体制も築く等、学生と社会を繋ぐ取組を行ってきた結果、広く認知されるに至り全国寄贈の達成となった。</p> <p>取組は現在でも工学部生20名余の自主サークルを技術指導する形で継続しており、今後は学生の手による新教材の開発・公開という新展開を各方面より期待されている状況である。</p>

3 表彰式・学内発表会

表彰式は、平成 27 年 11 月 16 日に本学事務局棟 1 階大会議室で行われ、全学で 4 グループが表彰された。我々は工学部枠から選出され「特別賞」を受賞した。

表彰式の冒頭で、原田信志学長が各グループの功績を紹介される中で、この特別賞について触れられた。この賞は今回特例的に設けられた賞で、業務の改善という本来の表彰目的とは異なった方向性の取組みながら実績としては顕著であることから、審査委員会で扱いを悩んだ末の決定であった、との説明であった。

その後、原田信志学長からグループ毎に、代表者へまとめて表彰状が手渡された。

また、表彰式の後に学内発表会が行われ、被表彰者より表彰事案についてプレゼンテーション形式での発表がされ、本グループからは須惠職員が代表して発表した。